

保育現場に於ける保育者のリトミック指導力向上の必要性

平松 なをみ

こども健康学科

Improving Eurhythmics-Based Leadership Skills of Nursery Teachers

Nawomi HIRAMATSU

要 旨

【目的】子どもの持っている表現力を育てるにあたり、リトミックを通して保育者に求められる基本的な指導力は何であるのかを現場を見て考える。

【方法】2017年4月から7月まで、「Kこども園」の2歳児・3歳児クラスにおいてリトミック授業を展開。筆者の模範リトミック授業を参考に保育者自ら授業展開し、その後報告書を書かせフィードバックを繰り返した。それに並行し、保育者の経歴、保育者から見た子どもを取り巻く環境、4ヶ月のリトミック授業を終えてのアンケート調査を行った。

【現状報告】当初、リトミックの身体表現をリズム運動と取り違えている保育者が多く見られた。しかし、模範授業への参加によりリトミック音楽教育の本質を少しずつ理解し授業に取り入れ始めている。4ヶ月にわたる保育者の作成する指導案実施後の報告書からリトミック指導力を高める方法を思考し実践することができた。

【キーワード】幼児音楽 リトミック ダルクローズ

Abstract

(Objective) In developing a kid's self-expression talent and ability based on a eurhythmic teaching method, we first, through an actual "case study", examine and define the fundamental leadership skill expected from a teacher.

(Method) Based on a eurhythmic teaching method model developed by the author, the teachers themselves will develop and lead a 4-month (April to July, 2017) eurhythmic class course followed by writing a report and revising the contents based on weekly feedbacks provided by the author. Also in parallel with that a survey will be conducted about the teachers' career, their view regarding the environment surrounding the kids, and their overall impression of the 4-month eurhythmic class course.

(Current situation report) A misunderstanding the author initially had was to assume a eurhythmic motion as a eurhythmic body expression. However, by participating in the model class course, the author gradually understood the essence of a eurhythmic body expression and have started to introduce that into the classes. Through the 4-month eurhythmic class course proposal report, the author is considering and practicing possible approaches to increase eurhythmic teaching skills.

Keywords : Early Childhood Music, Eurhythmics, Dalcroze

1. はじめに

保育現場でリトミックの身体表現をリズム運動と取り違えている現場を踏まえ、ダルクローズの教育理念から逸脱しているのではないかという疑問を抱いた。

それは、指導者のリトミックに対する間違った理解が原因なのではないかと考え、保育者が筆者の行う模範授業に参加し、その後模範授業を参考に独自の発想でリトミック指導案を組み立て、実施することを提案する。

2. 方法

調査対象：浜松市内 「Kこどもえん」保育者 5名

調査期間：2017年の4月～7月の4ヶ月間

調査方法：

- 1 保育者の経歴についてのアンケート
- 2 2歳児及び3歳児クラスの保育リーダーによるリトミック授業指導案実施後の報告書
- 3 保育者から見た子どもを取り巻く環境についてのアンケート
- 4 4ヶ月のリトミック授業を終えてのアンケート

3. 調査結果

調査1 保育者の経歴についてのアンケート

(対象者は保育リーダー及び複数担任の5名)

①取得免許

保育士	幼稚園教諭
5名	5名

②今まで保育内でリトミックを取り入れたことがありますか

はい	いいえ
4名	1名

③受け持った子どもの年齢 (複数回答可)

0～2歳	3歳	4歳	5歳
0名	6名	3名	4名

④勤続年数

1年未満	2～4年	5～9年	10年以上
1名	1名	1名	2名

⑤保育士の勤務先を教えてください (複数回答可)

幼稚園	保育園	こども園	その他
5名	0名	4名	0名

調査2 保育者の作成する指導案実施後の報告書

保育者(2歳児クラス及び3歳児クラスの保育リーダー)は、筆者による月3回の模範授業(30分)に参加。その後、保育者は毎日の保育の中で、模範授業を参考にした独自の授業案を作成し実施する(10～15分)。

報告書は1週間ごとに提出し、その日のうちにフィードバックを受ける。提出された報告書は何枚にも及ぶため、ここでは月毎に主要なものを取り上げる。

(2017.9.11 受稿, 2017.9.29 受理)

2歳児クラス：4月現在15名 ～ 8月1日現在19名 園児はリトミック未経験者

	指導目標	模範授業より	保育者の指導案より	報告・気づき・問題点
4月	自主性	♪ 大きなゾウさんがお散歩しているよ一緒にお散歩しよう → お友達いたね → こんにちはの挨拶をしよう	【さんぽ】の曲に合わせてゾウになって歩く 【もしもしかめよ】の曲に合わせて、ハイハイする→途中でカミナリが鳴る→傘にかくれる	みんな上手にできた
	♪ のリズムを感じる	「ゆーらゆーらゆらりー」とゆれ動く音を感じる	〔ゆーらゆーらゆらりー〕 (模範授業の再現)	模範授業のように即興ができない
5月	自主性、集中力	「みんなの音が聞こえるかな」手を叩く、足踏みをする 自分が発している音に気づかせる	【むすんでひらいて】の曲を歌ったあと、カメ、ウサギ、馬の表現活動をする	何回も繰り返すうちにこの時はこうやってやるという区別がついてきた
	想像力	色リングを見せて「何の色かな」と歌いながら聞く	手遊び【赤いふうせん】をしながら色を覚える	色を覚え、あか、きいろと言えるようになってきた
	♪ のリズムを感じる	子どもは、赤→リンゴ きいろ→バナナなどと答える 「ゆーらゆーらゆらりー」で揺れてみる	【こいのぼり】の曲に合わせてこいのぼりになって泳ぐ	反応が少ない
6月	自主性、集中力	【ホタルこい】の曲を歌い終わると  ピカッの音とともにホタルのお尻が光る→ホタルが飛ぶ→(ホタルが池に帰る)を操る	【むすんでひらいて】の曲を歌ったあと、動物の表現活動だけでなく乗り物の表現活動を加える 歩く→合図で反対まわり	無伴奏で子どもと向き合い歌った。走り回ってしまう子の対応が問題 自ら動物の動きを考えている子がいる ピアノの合図はわかりにくく、タンバリンなどの打楽器を使った 自ら身体を揺らしている子が増えた
	想像力、即時反応 ♪・♪ のリズムを感じる	「ゆーらゆーらゆらりー」何がゆれてる？	〔ゆーらゆーらゆらりー〕 (模範授業の再現)	
7月	自主性、集中力 想像力、即時反応 ♪・♪ のリズムを感じ	お返事しましょう  ♪ ♪ ♪ ♪ ♪. ♪ ○○ちゃん ハイ 「ゆーらゆーらゆらりー」と歌いながら揺れてごらん	名前をよぶ→ ハイ、タッチをする 5、6月に引き続き、【むすんでひらいて】の曲を歌ったあと、同様の表現活動を行う 子ども達からの発想を受けとめるようにする	リズム的にいかない 子どもからのリクエストによるものが増えた その中で、新幹線の音楽が見つからない 声を出して身体を揺らしている姿が見えた

3歳児クラス：4月現在12名 ～ 8月1日現在14名 園児はリトミック未経験者

	指導目標	模範授業より	保護者の指導案より	報告・気づき・問題点
4月	自主性、集中力 即時反応 音の強弱、高低を感じる	「動物さんのごあいさつ」 音を聴いて動物を想像する → 音に合わせて歩いてみる → どんな動物かな キリン、クマ、小鳥、ネズミ、ゾウ ピアノが止まったら挨拶する	・ウサギとゾウのお散歩 ピアノが止まったら挨拶する ウサギ → 耳と耳をくっつける ゾウ → 鼻と鼻をくっつける	4月最終週、ピアノの音を聴き分け動けるようになった。 ピアノが止まると即時に反応する子もいる 中には友達を見つけられない子もいる
5月	自主性・集中力 想像力・協調性 即時反応 音の高低	「動物さんのごあいさつ」 高い音→キリンが背のびしてごあいさつ 低い音→クマが手をつないでごあいさつ	【こいのぼり】の曲を音の高さを変えて歌う 高い音→子どものこいのぼりになって泳ぐ 低い音→お父さんのこいのぼりになって泳ぐ	・音の高低がすぐに聴き分けられて驚く ・音を聴いて「この音はダンゴ虫だよね」といいながら転がる子もいた。みんな楽しそう
6月	自主性・集中力 想像力・協調性 即時反応 音の高低 ♪ のリズムと拍	スカーフをとばそう「1, 2の③」 ③でとばす	熊さんのジャンプ 「1, 2の3」 ウサギさんのジャンプ 「1, 2のピョン」	発展させて、 アリ「1, 2のチョン」 ゾウ「1, 2のパオーン」 と工夫すると楽しそうだった。自分も楽しい
7月	自主性・集中力 想像力・協調性 即時反応	「赤いものって何かなー」とうた いながら問いかけ $\frac{4}{4}$ ♪♪♪ ♪ ♪♪♪ ♪ ♪♪♪ ♪ リンゴ トマト サクランボ と答えていく	動物のお散歩→ピアノの音が止まったら何かを見つめる。見つけたものを手でリズム打ちをしながら唱える 例 ♪ ♪ あーめ	走り回ってしまう子の対応が問題 自ら動物の動きを考えている子がいる 自ら身体を揺らしている子が増えた
	基礎リズム ♪ ♪ ♪	アイスクリームの散歩 ↓ 暑くて解ける ♪ ↓ 急いで冷蔵庫へ ♪♪ ↓ シャッキと凍る ♪ ♪ ♪ ♪	アイスクリームの散歩 (模範授業の再現)	楽しそうに活動している
	いろんなリズムと音	ロープの輪を船に見立て海を渡る ♪ ♪ 全員その中に入って↓ クジラが来たよ 低い音 ロープを持ち上げる↓ クジラがいなくなる 高い音	ロープの輪をバスに見たて全員中に入って運転 ♪ ♪ ↓ パンクしたよ→バッテリーがあがって壊れたよ→修理をしようトントントン→ガソリン入れて→走り出す	身体の動きやピアノの音に合わせて声を出すようになった

調査3 保育者から見た子どもを取り巻く環境について

児と母親との関係：

- 母親とゆっくり過ごす時間は少ない。(4名)
- 自己中心的な母親の姿がみられる。(4名)

児と父親との関係：

- 休日はよく遊ぶ。優しい(父親が迎えに来ることも多い)(2名)

子どもが家庭に戻ってからの外遊びについて：

- 少ないように感じる。(2名)

子どもが家庭に戻ってからの一人遊びについて：

- 家事に精一杯の親が多く、一人遊びが多いと思う。(4名)

調査4 4ヶ月のリトミック授業を終えて(8月1日実施)

イ. リトミックはリズム運動だと思っていましたか

- はい(5名) いいえ(0名)

ロ. 保育者と同一表現を求めていましたか

- はい(5名) いいえ(0名)

ハ. リトミックは既成曲を使わなければ出来ないと思っていましたか

- はい(3名) いいえ(2名)

ニ. 子どもの動きに合わせて即興演奏ができますか

- はい(1名) いいえ(4名)

ホ. タンバリンは叩くだけの楽器だと思っていましたか

- はい(1名) いいえ(4名)

ヘ. 保育者養成校においてリトミック授業はありましたか

- はい(2名) いいえ(3名)

ト. 4月の授業で感じたこと

i (2歳)

- ・回を重ねるごとに子ども達が成長し、自らの気持ちや感じたことを伝えようとしている様子に驚いた

ii (2歳)

- ・楽しんで表現している子が増え、自分も楽しかった

iii (2・3歳)

- ・子ども達の表現の豊かさに驚いた

iv (2・3歳)

- ・ピアノの音を聴き分けることが出来ている

v (3歳)

- ・発言が多くなった

vi (3歳)

- ・1つのテーマに向け、全員が取り組むようになった

vii (2・3歳)

- ・以前は既成曲を使い約束を伝え、できるまでやらせていたので、反応がみな同じだったが今は自由に表現させている為いきいきと楽しんでいる

viii (2・3歳)

- ・全体から離れてしまう子をどのように誘導したら良いのか迷った

ix (2・3歳)

- ・声かけよりピアノを聴いてどう反応するか。ピアノ演奏での表現を豊かにした

チ. 今後の保育にリトミックをどのように活かそうと思いましたか

i 子どもの表現力を引き出せる為、造形にも使える

ii 身体でリズムを取ることで感性を磨いていける

iii 「こうしなさい」と教えるのではなく、子供の想いを引き出し、表現出来る豊かな心を育てていきたい

iv 保育の合間に歌ったり体を動かして楽しみたい

リ. 今後の課題はありますか

・子どもの発想に対するピアノ即興演奏方法

・リトミックの導入方法・興味の持たせ方

調査結果の内容から

調査1・2より、保育者は勤続5年から10年の者が半数をしめ、3歳児から5歳児までのリトミックに携わっていることがわかった。免許取得の種類による指導力の相違は見られなかった。保育者のリトミック指導案実施後の報告書からは、リトミックに対する間違った理解がされていたことが明らかになった。当初は保育者全員が、[リトミックはリズム運動である]という認識の下、既成曲を使い強制的な表現を求めていたことが解かった。指導後、模範授業をそのまま再現する場合もあれば、同じ曲でも演奏方法を変えたり、無伴奏で歌ったりと自由な発想で指導を試みていることがわかった。

4～5月、特に2歳児クラスにおいて、既成曲を使用

して表現活動を行っていたが、リトミックは即興演奏を効果的に使用することから、指導の戸惑いを感じた。それは即興演奏の不得意に起因すると思われる。また、保育者から上がった問題点に対し、発達段階を考慮した指導案であるか・保育者の声のトーン・話すスピード・顔の表情に問題はないか・保育者の一方的な指示になっていないか・保育者自身が楽しんでいるかなどを指摘し、リトミックにおける即興演奏の必要性と取り組みについてもフィードバックした。

6～7月、保育者による独自の発想が加えられ、子どもの自主性を引き出せるようになった。そして、子どもへの洞察力が増し、保育者自身が楽しんでいった。

調査3から、リトミック授業を受ける子どもたちの環境には共働きが多く、家庭内での親子の触れ合いが少ないということが見えた。その中で、保育者達はこれらの子どもに対するアプローチ方法が画一的であり、保育者の子どもへの不十分な洞察力がダルクローズの指導方法の理解と実践へ導けない原因のひとつと考えられる。

調査4の結果は保育者が今までリトミックに対し、どのように理解していたかが明らかになる資料だった。

- ・4～7月の模範授業を参考に指導した結果が分かる回答（トのi～vii）
- ・以前のリトミック指導と比較される回答（イ・ロ・ハ・トのiv）
- ・今後のリトミック指導力が期待される回答（ニ・ホ・ヘ・ト・チ）

4. 現状報告

保育者は、ダルクローズ理念に基づく模範授業に参加し、独自のリトミック授業を展開することにより、1つの題材からの発想においても、保育者の意識向上が見られるようになってきている。

4月当初は、今まで自分たちが行ってきたリトミックとの違いにとまどっていた。しかし、回を重ねる度に、保育者の一方的な指示から子どもの表現を引き出す授業へと変化しはじめた。保育者自身がリトミックを楽しむことにより、子ども達の自由な表現と豊かな表情が見られるようになってきている。子どもの反応を読み取る力が増し、指導内容の強弱・大小・長短・リズムにおいても、多面的に指導案が作成できるようになってきている。

5. おわりに

今後、11月に開催される園での発表会において、各クラス子ども達による「ミュージカル」の台本・音楽・ダンスの振り付けを、これまでのリトミック授業を基に保育者たちが創作及び実施する。それにより、筆者が目標としてきた、ダルクローズの理念をどの程度理解し、

実践できたかを知ることができる。リトミックの「子ども主体活動」をより充実させる為には、保育者の音楽的センスと演奏技術に加え、洞察力・発想力など、保育者のリトミック指導力の向上が求められる。

今後、指導における問題点をさらに追求し、指導力向上のメソッドを立ち上げていきたいと考えている。

6. 文献

- ① 荒木 紫乃「表現 —幼児と音楽—」文化書房博文社 2001年
 - ② エリザベス・ハンドゥレスパー「ダルクローズのリトミック」ドレミ楽譜出版、1996年
 - ③ ダルクローズ音楽教育研究通巻第39号／日本ダルクローズ音楽教育学会、望洋印刷株式会社、2015年
 - ④ ダルクローズ音楽教育研究通巻第40号／日本ダルクローズ音楽教育学会、望洋印刷株式会社、2016年
 - ⑤ 「保育所保育指針」厚生省、2008年
 - ⑥ 「幼稚園教育要領」文部科学省、2008年
 - ⑦ リトミック研究の現在日本ダルクローズ音楽教育学会、開成出版、2003年
 - ⑧ リトミック実践の現在日本ダルクローズ音楽教育学会、開成出版、2008年
 - ⑨ リトミック教育研究—理論と実践の調和を目指して—日本ダルクローズ音楽教育学会、開成出版、2015年
- (2017.9.11 受稿, 2017.9.29 受理)